

具体的取組の推進状況

施策の区分	(1) 生活支援体制の充実	施策の方向	① さまざまな状況に対応する相談支援体制の確立 (具体的取組数 5)
施策の方向	障がいのある人やその家族などの抱える問題を的確に把握し、一人ひとりのニーズを明確にするとともに、事業者や関係機関等との連携を図り、効果的な支援が行われるよう、包括的かつ継続的なコーディネートを行う。また、さまざまな課題に対してより専門的な対応ができるよう、相談支援体制の充実を図る。		

具体的取組の内容	実施状況	実施内容	R4 予算額 (千円)	実施実績	自己 評価	評価根拠		委員会 評価	評価根拠	前年度の評価	
						自己 評価	委員会 評価			実施 状況	評価
1	I	ワンストップ相談窓口となる障がい者基幹相談支援センターを運営し、ライフステージをつなぐ継続した相談支援を目指します。	20,178	R3実績:相談件数351件	A	初期相談、モニタリング、家庭訪問に加えて金銭管理援助などのインフォーマルな支援も行うなど、ニーズに合わせて幅広く対応している。福祉課所管業務以外の場合も、必要に応じて担当機関へ適切に引き継いでいる。令和2年度から新たに公認心理師1人を配置し、相談支援体制の充実を図っている。	A	自己評価のとおり	I	A	
2	I	ひきこもりや子どもの発達の不安などの課題に、より専門的な対応ができるよう相談支援体制の充実を図ります。	4,491	R3実績:ひきこもり相談件数49件 心理検査・カウンセリング等件数86件	B	こもりびと相談員による相談窓口の開設に加え、茶話会を3回開催し、こもりびと本人や家族等の悩みや苦しさに寄り添う支援を行っている。また、公認心理師による心理検査やカウンセリングにより、発達に心配のある子どもや親の不安解消を図っている。今後もより効果的な周知により潜在的な対象者を拾うことを検討していく必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B	
3	I	町の各種相談窓口や町内の特定相談支援事業所の認知度を高めるための広報活動を行います。	-	広報紙は毎年5月号で周知している。福祉サポートブックは手帳等交付時に配布している。また、基幹相談支援センターについては、チラシを窓口配置するとともに、手帳交付時の通知文の裏面にチラシを掲載している。	B	令和2年度の計画策定時に実施したアンケートでは、障がい者基幹相談支援センターや町内の相談支援事業所の認知度が約45パーセントであり、前回のアンケートから認知度が約8ポイント向上しているものの、依然半分に満たない状況にあるため、今後もより効果的な周知方法を検討していく必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B	
4	III	障がい者総合支援協議会の相談支援部会で、相談員等の資質向上等を目指す研修会を開き、相談員の育成に努めます。	-	相談支援部会において、相談員等を対象にした研修会を実施する予定である。	-	-	-	-	-	III	
5	II	【重点】障がい者総合支援協議会の相談支援部会で、新たな地域課題等を把握し、関係者が連携して支援方法を検討する仕組みを整えます。	-	R3実績:相談支援部会の開催回数1回	C	今後は相談支援部会の開催を増やしたり、定期的に開催するなどして、関係者がより一層連携することができる仕組みを整える必要がある。	C	自己評価のとおり	III	-	
【評価基準及び配点】		I :実施済(5点) 3項目 II :一部実施(4点) 1項目 III :今年度以降実施見込(3点) 1項目 IV :検討中(2点) 0項目 V :未実施(0点) 0項目		} 実施状況が I 又は II の場合、評価を行う。 → 4項目		A :現状のまま可(5点) 1項目 B :目標を概ね達成しているが、改善の余地がある(4点) 2項目 C :目標達成のために改善が必要(3点) 1項目 D :目標達成のために抜本的見直しが必要(2点) 0項目 E :実施不要(0点) 0項目	A 1項目 B 2項目 C 1項目 D 0項目 E 0項目				
評価結果		4.4 点				3.2 点		3.2 点			

施策の方向 の評価	自己評価		委員会評価		評価基準 及び配点	前年度の評価
	C	1つを除いて全ての取組を実施しているが、その中にはC評価のものが1つ含まれている。今後はこれらの改善を図るため、相談支援部会の開催やその中での研修会の実施などに取り組んでいく必要がある。	C	自己評価のとおり		

具体的取組の推進状況

施策の区分	(1) 生活支援体制の充実	施策の方向	② 地域生活の場の確保	(具体的取組数 8)
施策の方向	障がいのある人が、将来にわたり自ら選んだ住まいに安心して暮らしながら、日中活動に参加するなど充実した毎日を送ることを目指す。			

具体的取組の内容	実施状況	実施内容	R4 予算額 (千円)	実施実績	自己 評価	評 価 根 拠	委員会 評価	評 価 根 拠	前年度の評価	
									実施 状況	評価
1 地域活動支援センターを運営し、生産活動等の場を提供します。	I	特定非営利活動法人どんぐりの家福祉会に委託して実施している。	7,159	R3実績:1か所運営、町民利用実人数11人	A	地域活動支援センターの利用者に対して、創作活動や生産活動の場を提供するとともに、社会交流を図る場を提供している。	A	自己評価のとおり	I	A
2 日中一時支援事業等を実施することにより、日中活動の場を提供します。	I	障がい福祉サービス事業所等に委託して実施している。	80,000	R3実績:26事業者に委託し、160人に対して11,740回の支援を実施した。	A	利用者がニーズに合った事業所に通うことができるように、町内外の事業所に委託し、幅広い選択肢を確保している。また、利用上限を設けず、ライフスタイルに応じた支給量を提供している。	A	自己評価のとおり	I	A
3 居宅のバリアフリー化などに要する住宅改修費を助成します。	I	日常生活用具給付事業において、改修費を助成している。	17,611	R3実績:4件233千円	A	地域生活支援事業実施規則に基づき実施しており、ニーズに合った助成を行っていくため、必要に応じて助成対象の拡大などの対応を行っている。	A	自己評価のとおり	I	A
4 居宅から施設等に通所する際の交通費を助成します。	I	通所施設、透析通院、難病等治療通院、肢体リハビリ(児童のみ)などを対象に、交通費を助成している。	8,684	R3実績:520人に対して6,798千円を助成した。	A	ニーズに合った助成を行っていくため、必要に応じて助成対象の拡大などの対応を行っている。	A	自己評価のとおり	I	A
5 障がいのある人の孤立化等を防ぐため、地域コミュニティや民間事業者等による見守り活動を実施します。	I	地域包括支援センター等と連携し、「あんしんネットワーク」活動を推進し、地域での見守り活動を行っている。	—	R3実績:95事業者等が参加し、地域の見守り活動に協力している。	A	あんしんネットワークでの見守りにより、障がいのある人が抱える問題の早期発見や適切な支援につなげていくことができるよう活動しており、協力事業者も増加している。	A	自己評価のとおり	I	B
6 親亡き後を見据えた支援体制を構築するため、地域生活支援拠点等の運用状況を検証し、機能強化に向けた検討を行います。	I	十勝障がい者総合相談支援センターが主催する北十勝4町の相談支援部会で運用状況を検証している。	270	R3実績:地域生活支援拠点の運用実績はないが、北十勝4町の相談支援部会で機能強化のための検討等を行っている。	B	令和2年度から、音更町、土幌町及び鹿追町にある地域資源を連携させ、面的整備型という手法により、広域的に地域で暮らす人を支援する体制を整えた(北十勝地域生活支援拠点)が、まだ実績がなく引き続き効率的かつ効果的な運用方法について検討していく必要がある。	B	自己評価のとおり	II	B
7 安心生活支援事業等の実施により、緊急時の受入体制の強化を図ります。	I	障がい者支援施設等に委託して実施している。	70	R3実績:なし	A	北十勝地域生活支援拠点の整備に伴い、本町における緊急時の受入体制を確保するため、宿泊費用を本町が負担することにより、一次的な宿泊先を確保している。	A	自己評価のとおり	I	A
8 障がい者基幹相談支援センターがグループホームの空き状況等を定期的に確認することで、居住の場を紹介する機能を強化します。	I	基幹相談支援センターが各施設の空き状況を確認している。	—	R3実績:4半期ごとに、関係町に周知した。	A	北十勝地域生活支援拠点の整備に伴い、基幹相談支援センターが関係3町のグループホームの空き状況等を確認し、情報提供している。	A	自己評価のとおり	I	A
【評価基準及び配点】	I :実施済(5点)	8項目	} 実施状況が I 又は II の場合、評価を行う。 8項目	A :現状のままで可(5点)	7項目	A 7項目				
	II :一部実施(4点)	0項目		B :目標を概ね達成しているが、改善の余地がある(4点)	1項目	B 1項目				
	III :今年度以降実施見込(3点)	0項目		C :目標達成のために改善が必要(3点)	0項目	C 0項目				
	IV :検討中(2点)	0項目		D :目標達成のために抜本的見直しが必要(2点)	0項目	D 0項目				
	V :未実施(0点)	0項目		E :実施不要(0点)	0項目	E 0項目				
評価結果	5.0点		4.9点		4.9点					

施策の方向 の 評 価	自 己 評 価		委 員 会 評 価		評価基準 及び配点	前年度の評価
	A	全ての取組を実施しており、その評価もA又はBとなっている。	A	自己評価のとおり		

具体的取組の推進状況

施策の区分	(1) 生活支援体制の充実	施策の方向	③ 必要な障がい福祉サービスの確保	(具体的取組数 12)
施策の方向	障がいのある人が、サービスの内容について十分理解した上で、必要なサービスを希望するときに利用できる体制を整える。			

具体的取組の内容	実施状況	実施内容	R4 予算額 (千円)	実施実績	自己 評価	委員会 評価			前年度の 評価	
						評価	根拠	根拠	実施 状況	評価
1 障がい福祉制度についての説明会や講演会を開きます。	I	出前講座形式で、参加者に関心のあるテーマで説明会を実施している。	400	当事者団体や事業所職員に対しての説明のほか、障がい者差別解消等に関する役場職員向けの講義を行った。	B	より多くの人に参加してもらえるように、効果的な周知方法を検討していく必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B
2 初めての人も障がい福祉サービスの対象や種類、手続などの見通しが立ちやすいように、フローチャートを用いた分かりやすいリーフレット等を配布します。	I	色分け等によりわかりやすく作成したフローチャートをサービス利用の相談時等に渡している。	—	R3実績：作成した13種のフローチャートを配布した。	A	申請者が行う手続を色分けして表示するなど、分かりやすいものになるよう工夫して作成している。	A	自己評価のとおり	I	A
3 ICTを活用した各種制度等の情報の効果的な発信に努めます。	I	既存のメールに加え、SNSでも情報発信を行っている。	—	R3実績：登録者に福祉サービス情報をメール送信したほか、子育て支援サイトを通じてSNSでも情報を配信した。登録者数：メール56人、Facebook119人、LINE201人、Twitter133人	A	発信内容の見直しを随時行っているほか、子育て支援サイトを通じてSNSでの発信を開始した。今後は、利用者が求める情報を把握するための工夫を行っていく。	A	自己評価のとおり	II	B
4 複数のサービス利用を必要とする人について、適切な相談対応や利用プランの作成のための支援を確保します。	I	基幹相談支援センターを運営し、サービス利用の相談やプラン作成等を行っている。	20,178	R3実績：相談件数351件、プラン作成等142件	A	基幹相談支援センターの運営や民間事業所の指定により、希望する全ての人々が計画相談支援を受けられる体制を整備している。	A	自己評価のとおり	I	A
5 在宅サービスを質・量ともに充実するため、事業所支援等を検討します。	I	事業所主催の自主研修の費用に対し、助成するとともに、総合支援協議会で研修会を開き、人材育成を図っている。	724	R3研修会実績：1回 R3研修費助成実績：100千円(1法人)	C	事業所の自主研修への助成について、利用促進のためのより効果的な周知方法を検討していく必要がある。総合支援協議会での研修会も、コロナ禍であればオンラインでの開催を検討していく必要がある。	C	自己評価のとおり	II	C
6 施設サービスを必要量確保するため、障害者支援施設の設置者支援に努めます。	I	施設整備に係る借入金償還費等への助成を行うとともに、事業所が開催する自主研修の費用に対し、助成を行っている。	35,331	R3償還費助成額：35,498千円(2法人) R3研修費助成実績：100千円(1法人)	B	ハード面での支援は行われているが、ソフト面では事業所の自主研修への費用助成の件数が少なく、利用促進のためのより効果的な周知方法を検討していく必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B
7 申請手続の簡略化等により、サービスを使いやすくするための取組を進めます。	I	申請書類の簡略化等に随時取り組んでいる。	—	これまでに、制度間の申請書の統合や申請書と同意書の統合、氏名等の事前印字、押印廃止による簡素化のほか、セルフプラン(児童)の様式の見直しを行っている。	A	町民の意見等を踏まえたり、担当職員での意見交換を経て、申請手続の簡略化に向けた取組が着実に進められている。	A	自己評価のとおり	I	A
8 身体の機能等を補い、日常生活を送りやすくするため、補装具や日常生活用具を支給します。	I	法令等に基づき支給するとともに、日常生活用具にあっては、種目の追加や基準額の見直しを適時行っている。	39,611	R3補装具実績：11,245千円 R3日常生活用具実績：14,388千円	A	補装具については法令等に基づき適正に支給している。地域生活支援事業たる日常生活用具については、種目の追加や基準額の見直しを通じて、利用者の生活の向上を図っている。	A	自己評価のとおり	I	A
9 サービスを利用する人の利用者負担を軽減するため、高額地域生活支援事業費助成等を行います。	I	障がい福祉サービスと地域生活支援事業を併用する利用者に対し、両サービスの合算額を月額上限負担額まで軽減している。	1,296	R3実績：38人1,275千円	A	高額地域生活支援事業費助成の実施により、障がいのある人の負担軽減が図られ、必要なサービス利用の確保につながっている。	A	自己評価のとおり	I	A
10 今後必要となるサービスの内容や量について、サービス事業者や関係機関と協議を行いながら検討できる体制をつくります。	II	総合支援協議会に6つの専門部会を設置しているが、コロナ禍により開催できていない部会がある。	—	R3実績：6つの専門部会のうち、2つは一堂に会しての開催、残りは書面での開催のみとなっている。	B	令和4年度からは、全部会一堂に会して開催し、検討体制の充実・強化を図ることとしている。	B	自己評価のとおり	II	C
11 ひきこもりや医療的ケアが必要な人に対する支援などの課題に対して、関係者が連携しチームとして支援方法を検討できる体制をつくります。	II	総合支援協議会にひきこもり対策部会と医療的ケア支援部会設置したが、コロナ禍により部会を開催できていない。	—	R3実績：いずれも書面での開催のみとなっている。	B	令和4年度からは、一堂に会して開催し、検討体制の充実・強化を図ることとしている。	B	自己評価のとおり	II	C
12 ひきこもり等で悩む当事者や保護者同士が相談や情報交換ができるような場を提供します。	I	こもりびと(ひきこもりのひと)しゃべり場を定期的に開催している。	—	R3実績：3回開催、参加者13人 ※このほかにコロナ禍で中止したものが1回	A	しゃべり場の開催により場の提供はできている。参加者の増のため、メディアやインターネットを通じての情報発信を強化しているほか、口コミでの参加者も増加している。	A	自己評価のとおり	I	B
【評価基準及び配点】	I : 実施済(5点)	10 項目	} 実施状況が I 又は II の場合、評価を行う。 → 12 項目	A : 現状のまままで可(5点)	7 項目	A 7 項目				
	II : 一部実施(4点)	2 項目		B : 目標を概ね達成しているが、改善の余地がある(4点)	4 項目	B 4 項目				
	III : 今年度以降実施見込(3点)	0 項目		C : 目標達成のために改善が必要(3点)	1 項目	C 1 項目				
	IV : 検討中(2点)	0 項目		D : 目標達成のために抜本的見直しが必要(2点)	0 項目	D 0 項目				
	V : 未実施(0点)	0 項目		E : 実施不要(0点)	0 項目	E 0 項目				
評価結果	4.8 点			4.5 点		4.5 点				

施策の方向 の評価	自己 評価		委 員 会 評 価		評価基準 及び配点	前年度の 評価
	A	全ての取組を実施しており、C評価の項目も1つあるが、AとBの評価が大部分となっている。	A	自己評価のとおり		